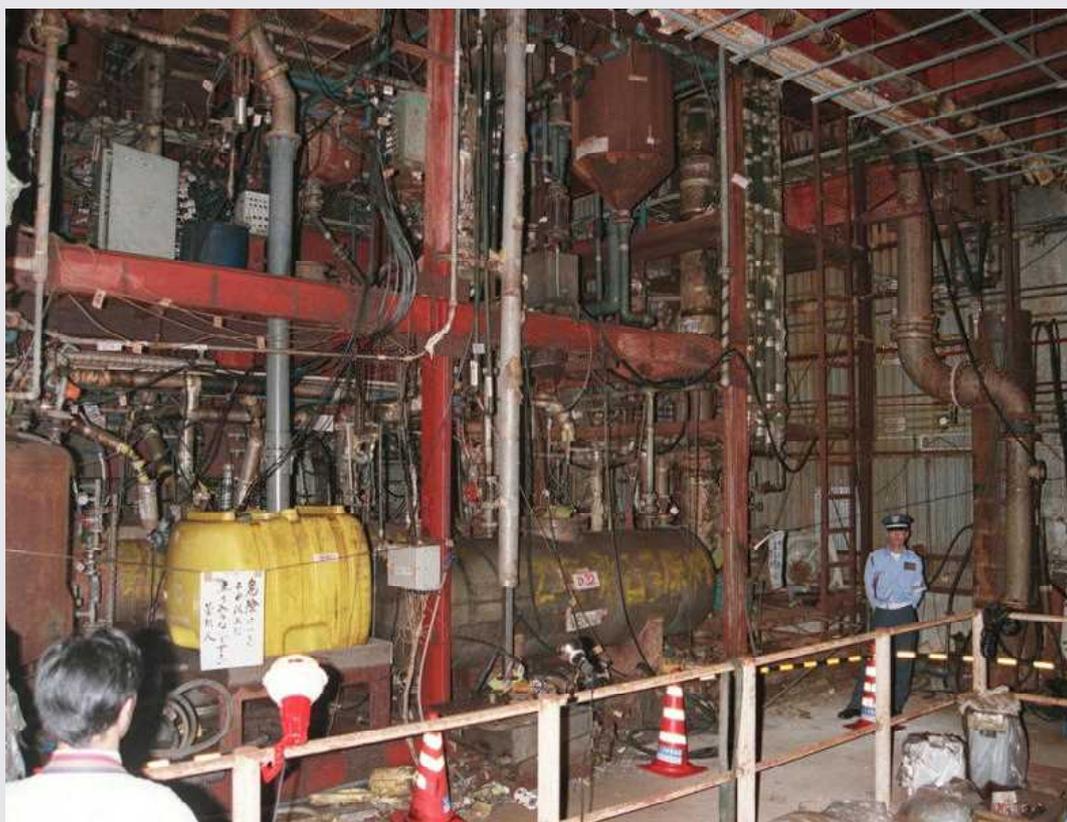


地下鉄サリン事件（平成7年3月20日）

1 事件に至る経緯

- 平成5年、麻原彰晃が団体幹部に対して、殺傷能力の高いサリンの研究・開発を指示（その後、団体はサリンの生成に成功）



団体が建設した、サリン生成が可能なプラント(時事)

- 平成7年1月以降、メディアが、団体に関与した事件について、団体による犯行の可能性や事件捜査の進展状況などを報道
 - ➔ これら報道を受けて、麻原らが「**団体に強制捜査が入るのではないか**」などと危機感

麻原は、間近に迫った団体に対する強制捜査を阻止するために、**東京の地下鉄電車内にサリンを散布することを指示**

2 事件のじゃっ起

- 団体の幹部構成員ら5人が、朝の通勤時間帯、営団地下鉄（現：東京メトロ）霞ヶ関駅を通過する3つの路線（日比谷線、千代田線、丸ノ内線）を走る5つの車両において、先端をとがらせた傘でサリン入りビニール袋を突き刺し、サリンを散布



サリンがまかれた地下鉄駅構内で、検知作業をする
陸上自衛隊化学防護隊（陸上自衛隊提供・時事）



毒物の容器を運び出す警視庁
科学捜査研究所の職員（時事）

- サリン中毒により乗客ら**13人を殺害、5,800人以上（※）**がサリン中毒症の傷害を負い、令和2年3月には、25年にわたる闘病生活の末、サリン後遺症により更に1人が亡くなりました。

※ オウム真理教犯罪被害者等を救済するための給付金の支給に関する法律に基づく給付金支給に当たり、平成22年3月までに認定された数



営団地下鉄・築地駅から地上に運び出され、救急車などに
収容される乗客（朝日新聞社／時事通信フォト）